

令和7年度第4回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第4回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和7年7月16日（水）午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関保健センター 2階 栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 阿部利彦委員、伊藤拓也委員、宇津野泉委員、岩渕一司委員、大内早智子委員、小山亜希子委員、加藤沙央里委員、菊池正人委員、小岩邦弘委員、西條恵美子委員、佐藤ひかる委員、東海林訓委員、菅原美津代委員、千田久美子委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田正弘委員
 - ※欠席者 泉賢司委員、及川恵理子委員、小野寺忍委員、齊藤裕美委員、佐々木承子委員、千田好記委員、吉田捺委員
 - (2) 事務局 今野薫市長公室長、小山隆之政策企画課長補佐兼政策推進係長、佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事
 - (3) 一関市総合計画策定支援業務受託者 株式会社邑計画事務所 及川一輝取締役

5 議題

- (1) 新市建設計画の変更及び過疎地域持続的発展計画の策定について
- (2) 次期総合計画前期基本計画における施策の方向性について
- (3) パブリックコメントについて

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 1人（うち報道機関 1社）

8 小岩会長挨拶

8月に実施するパブリックコメント前の最後の会議であり、パブリックコメントに出す案をまとめることとなる。前回までの会議のように意見を出して終わりではなく、まとめる作業を集中的に行いたいと考えているのでよろしくお願いします。

9 議題

- (1) 新市建設計画の変更及び過疎地域持続的発展計画の策定について
事務局から資料No.4に基づき説明を行った。質疑等なし。
- (2) 次期総合計画前期基本計画における施策の方向性について
- (3) パブリックコメントについて

事務局から資料No.1～3に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

会 長 本日の会議ではパブリックコメントに出す案をまとめることになるので、資

料No.1において「パブコメ対象外」と示されているものについては議論しない。
資料No.2のパブリックコメントの対象となるページについて順番に確認していく。

まず、3～4ページ「将来像を実現するためのまちづくりの考え方と役割」について、修正等の意見があれば、具体的かつ簡潔にお願いしたい。

会 長 意見がないようなので、この案でパブリックコメントに出すこととする。
以降は大目標ごとに確認を行う。

「自分らしさを見つけ互いに認めあえるまち」について、意見があればお願いしたい。

委 員 14ページ「こどもの健やかな成長」の成果指標「地域や社会を良くするために何をすべきか考えている児童生徒の割合」は曖昧すぎる。先生の指導の仕方やアンケートの対象者によって数値が動くので、もっと具体的な指標に変えてほしい。また、「こどもの居場所の数」も定義が曖昧なので対象施設を示すなどの修正が必要である。

15ページ「人権の尊重と支え合いの地域づくり」の成果指標「性的マイノリティについて言葉を聞いたことがあり、意味も知っている人の割合」もアンケートの対象者によって回答がかなり変わるので10年後の指標としては弱いと思う。

事務局 「地域や社会を良くするために何をすべきか考えている児童生徒の割合」は全国や県の調査項目を引用している。「こどもの居場所の数」については市の事業でのみ把握するか、民間の事業も含めるか検討中である。性的マイノリティに関する指標は年代や地域を均等に抽出して調査を行っているので偏りは抑えられると思う。

委 員 「こどもの居場所の数」については、総合計画が行政だけの計画ではないことを考えると、民間も含めるべきだと考える。

委 員 15ページ「人権の尊重と支え合いの地域づくり」の成果指標「人権教育・啓発事業実施回数」について、人権教育は家庭で行うもの、地域で行うものなど範囲が広いため、定義を明確にする必要がある。

事務局 人権擁護団体などが行う啓発事業回数で数値化したいと考えている。

委 員 そこまで絞ると回数が少なくなってしまうので範囲を広げることも検討いただきたい。

委 員 指標について、中目標の指標が高い達成率であれば、大目標は達成できるのではないかと。大目標の指標と中目標の指標を別々に設定すると、相関が無くな

るおそれがあるので、中目標の達成度で大目標の達成度を判断する仕組みに変えてはどうか。

事務局 次期計画は、現計画とは異なり、具体的な施策や事業を積み上げて大きな目標を達成しようとするのではなく、大きな目標を立てて、そのためには何が必要かを考えて施策を体系的に組み立てている。施策に合わせて指標も同じように体系的に整理したいと考えている。

委員 数値化だけで成果を見極めるのは厳しいと思う。「成果指標」という言葉ではなく、「成果の目安」や「指標の目安」といった言葉に変えてはどうか。また、「成果指標」と「評価指標」という言葉が混在しているのでどちらかに統一してほしい。

会長 「評価指標」に統一した方がよい。

事務局 現時点では指標という言葉以外に適切な表現を提案できないので、「評価指標」に統一してパブリックコメントに出したい。

会長 他に意見がなければ、大目標「自分らしさを見つけ互いに認めあえるまち」の各ページは、以降の全てのページに共通するが「成果指標」を「評価指標」に修正してパブリックコメントに出すこととする。次に大目標「大切なひととの未来を育むまち」について意見をお願いしたい。

委員 16ページ「結婚と出産の選択の尊重、支援」の成果指標「結婚を希望する人へ向けた経済的支援」は、結婚を希望すると補助金をもらえると思ってしまうのではないか。結婚祝金制度など実際の支援件数を指標にした方が分かりやすい。

事務局 誤解を招くので表現を見直す。

委員 子育て支援に関する指標が足りないように思う。

委員 子育て相談窓口の設置数だけではなく、相談件数も併記してはどうか。窓口を設置しても誰も来ないのであれば意味がない。

事務局 修正前は相談件数としていたが、前回の審議会において相談に来る人が多ければ良いのかという意見があり、子育て相談窓口の設置数とした。

会長 指標とはしなくても、窓口に何人来たかというデータは市で把握し施策に反映させると思う。

委員 放課後児童クラブの定員数という指標よりも充足率の方が分かりやすい。

事務局 放課後児童クラブの定員数は保護者ニーズを把握した上で設定しており、充足率100%を前提に定員数を設定しているが、分かりやすいように記載方法を見直したい。

委員 指標となると数字で表したくなるが、施策の内容が充実しているかが重要である。

会長 他に意見がなければ、大目標「大切なひととの未来を育むまち」については、誤解を招くような表現を修正してパブリックコメントに出すこととする。次に大目標「学びで可能性を広げるまち」について意見をお願いしたい。

委員 大目標の指標「全国規模の大会における上位入賞した人の数」は、入賞者よりも出場した児童数を指標にした方が、数字が上がり、出場した児童の意欲も上がってよいのではないか。

また、18ページ「こどもの学びの場づくり」に大学誘致の視点がない。

事務局 大学誘致の視点は「多様な学びの場の確保」に含めている。

全国規模の大会出場に関する指標は、全年齢を対象にしたいので、個人と団体をどう数えるか今後検討したい。

委員 19ページ「生涯学べる環境づくり」の市民センター関係の指標は、社会教育主事の資格取得者数よりも、各種サークル活動への参加人数や参加率を指標にした方が市民には分かりやすいと思うので、今後検討いただきたい。

会長 他に意見がなければ、大目標「学びで可能性を広げるまち」については、修正なしでパブリックコメントに出し、指標については今後検討していくこととする。次に大目標「いきいきと自分らしく暮らせるまち」について意見をお願いしたい。

委員 21ページ「多様な社会参加の推進」の指標「障害福祉施設入所者のうち地域生活へ移行した人数」は人口減少の影響を受けるので割合の方が良いと思う。

事務局 人数で設定している指標は、人口減少も加味した目標値としたいと考えている。

委員 指標の「障害福祉施設入所者」を入所施設に限定しているのはなぜか。施設に限定した方が数値を把握しやすいのは理解するが、地域の中で社会の一員として暮らすことができるまちが目指すまちの姿なので、就労支援に関する指標とした方が良いのではないか。

事務局 本来は地域で生活するのが望ましいという前提の上で設定した指標であった。障がい者の雇用に関する指標も検討したが、現在は障がい者雇用ではなく、一般雇用の形で就労される方もおり、数字が把握しきれないため、一側面を切り取った、目安としての現在の指標となった。

委員 20ページ「健康寿命の延伸」の指標「週1回以上外出している高齢者の割合」よりも地域サロンなどへの参加率を入れてほしい。ただ買い物に行くなどでは

なく、外に出てコミュニケーションを取ることが大切である。

委員 「人工透析患者数」だけを特定する理由が分からないので、もう少しトータルの三大疾病の罹患率なども検討してほしい。

事務局 外出頻度については、健康診断の間診項目を活用したいと考えている。人工透析については、若い世代を含めた健康づくりの取組として糖尿病重症化予防に連動させたいと考えた。

委員 21ページ「多様な社会参加の推進」の指標「メンタルヘルスチェックシステム『こころの体温計』アクセス数」について、こころの体温計は通院している方が使用しているものか、一般の方も利用できるのか。

事務局 一関市のホームページ上で公開しているシステムであり、誰でも利用できる。自分のこころの健康と向き合っていたきたいという思いもあり、指標として設定した。

委員 「避難行動要支援者の避難支援計画策定数」は名簿更新にタイムラグがあるので指標として難しいと思う。

委員 災害が起こったときに、要支援者をどのように避難させるかは非常に重要であるので、この指標は必要だと思う。

会長 他に意見がなければ、大目標「いきいきと自分らしく暮らせるまち」については、修正なしでパブリックコメントに出し、指標については今後検討していくこととする。次に大目標「暮らしやすい・住みやすい環境が整うまち」について意見をお願いしたい。

委員 23ページ「暮らす機能の整備」の指標に「公共施設の延べ床面積」とあるが、今後施設の廃止が見込まれる中で適切な指標ではないのではないかと。

また、記載されている「県内14市水道管の延長」のデータについて、花巻市など抜けている市があるので確認をお願いしたい。

事務局 一関市公共施設等総合管理計画において、人口規模に合わせた公共施設の延べ床面積が示されているので、それと合わせた目標値としたい。

会長 「公共施設の延べ床面積」は廃止されていく施設がある中で、あまりふさわしくない指標のように思う。住環境を示す指標としては、1人当たりの公園面積などが適切ではないかと。

会長 他に意見がなければ、大目標「暮らしやすい・住みやすい環境が整うまち」については、修正なしでパブリックコメントに出し、指標については今後検討していくこととする。次に大目標「安全・安心を感じられるまち」について意見をお願いしたい。

委員 25ページ「安全なまちの整備」の指標は交通事故件数だけでなく犯罪件数も入れてほしい。目指す姿の実現に向けた取組は「犯罪に巻き込まれないため」ではなく「犯罪を未然に防ぐ」という表現の方がよい。

会長 そのように修正をお願いしたい。

委員 多言語看板数など外国人市民向けの情報整備に関する指標も入れてはどうか。

委員 消防団員充足率は条例定数により数字が大きく動くので、指標としてあまり良くないと思う。

会長 多言語看板数などを指標とすることは難しいかもしれないが、修正案は次回
の審議会で提示したい。

会長 他に意見がなければ、次に大目標「ひとが集まり活力があふれるまち」について意見をお願いしたい。

委員 26ページ「まちにつながるひとの拡大」の指標「観光系イベント開催数」の
対象イベントは具体的に何か。

事務局 地ビールフェスティバルやバルーンフェスティバルなどを対象にしたいと考
えているが、詳細は今後整理していく。

委員 「移住促進事業を活用して移住した人数」は限定的だと思うので「移住者数」
で良いと思う。

事務局 転入者が移住してきた方か、一時的に転入した方なのかを判断することがで
きない。大目標の指標に転入者数を置き、中目標の指標で施策を活用して移住
してきた方の数を把握し、取組の効果を測りたいと思う。

委員 28ページ「まちの景観の保全」の指標「中心市街地の通行者数」について、
「中心市街地」とはどこを指すのか。またどのように数字を把握するのか。

事務局 中心市街地とは一ノ関駅西口周辺のエリアを指し、このエリアにある公共施
設の入館者数で数字を把握しようと考えている。

委員 定年後に一関市に戻り、暮らす人もいるので、そういった方もカウントでき
るように工夫してほしい。

また、27ページ「地域づくり活動の充実」の指標「自治会等活動費総合補助
金活用団体の割合」や「地域づくり計画の見直し件数」はほぼ100%の達成率と
なるので、活動実態を示す指標が別に必要だと思う。

事務局 移住者については、年齢を問わず把握したいと考えている。

「自治会等活動費総合補助金活用団体の割合」や「地域づくり計画の見直し
件数」については、地域差もあり、高い水準を維持していくことを想定して設
定した指標である。

会 長 他に意見がなければ、以降のすべてのページを対象として意見をお願いしたい。

委 員 29ページ「持続可能な脱炭素社会の実現」の指標「燃料用木材生産量」について、生産量だけでは利用実態がわからないので販売量や使用量も指標に設定してはどうか。

事務局 使用量や市内の販売量を把握することは難しい。使用量が伸びないために生産量が伸びないという現状があるので、生産量を伸ばすため、使用量を増加させる方向の取組も必要になると考えている。

委 員 36ページ「働くことにつながる環境づくり」の指標に「保育分野における職員充足率」があるが、保育分野だけに絞るのは不自然であり、介護や医療の分野を含むエッセンシャルワーカーなど全体的な指標が欲しい。

また、18ページ「こどもの学びの環境づくり」で「幼稚園」だけが書かれ、「保育園・認定こども園」が抜けている部分があるので修正をお願いしたい。

事務局 「保育分野における職員充足率」は、「エッセンシャルワーカーの充足率」としたかったが、把握することが難しく、一番把握が可能な保育分野としたもの。

「保育園・認定こども園」の記載については修正する。

委 員 37ページ「働き続けられる環境づくり」について、目指す姿の対象が「すべてのひとが」となっているにもかかわらず、成果指標が「くるみん認定企業数」だけであり、限定的である。現状に合わせて、給料に関するものなどを示す指標を検討いただきたい。

会 長 方向性に大きな変更がない範囲で事務局で修正し、パブリックコメントに出すこととしたい。

10 担 当 課 市長公室政策企画課